

“痛み”の 臨床推論

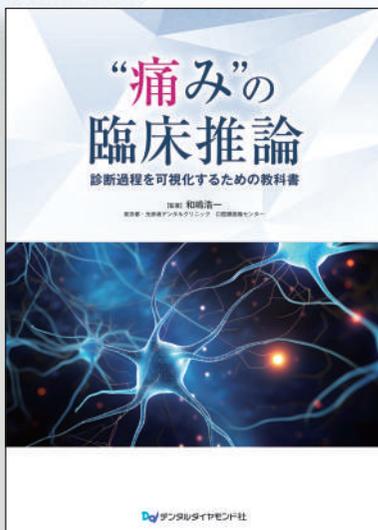
診断過程を可視化するための教科書

【監著】和嶋浩一 東京都・元赤坂デンタルクリニック 口腔顔面痛センター



詳しい情報は
こちら

“原因不明”の痛み、正しく診断できますか？



月刊デンタルダイヤモンドの好評連載「症例に学ぶ診断マスターへの道」をベースに、「臨床推論（臨床診断推論）」を体系的にまとめた書籍が完成しました！

本書では、経験だけに頼らず、論理的に診断を下すためのノウハウ「臨床推論」が解説されています。

口腔顔面痛の診断では、診断過程を“見える化”して進めることが重要であり、そのために「臨床推論」は欠かせません。

「臨床推論」は令和4年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムにて初めて加えられたこともあり、今後教育現場においても注目度が高まることが予想されます。すでに臨床にあたっている歯科医師においても、知っておくべき知識・情報といえます。

「臨床推論」の学び始めはぜひ本書から！

A4判・196頁・オールカラー 本体8,000円+税

CONTENTS

序章 歯学部における臨床推論

- Section 1 臨床推論とは何か
- Section 2 歯科における臨床推論の特徴
- Section 3 モデル・コア・カリキュラムについて

第1章 臨床推論とは

- Section 1 日常臨床で診断精度を上げるための臨床診断推論

第2章 臨床推論に必要な基礎知識

- Section 1 口腔顔面領域における痛みの発生メカニズム
- Section 2 診断エラーを防ぐ歯原性歯痛における鑑別のポイント
- Section 3 筋の痛みが引き起こす歯痛 他

第3章 臨床推論の実践例①

- Section 1 3章の読み方
- Section 2 下顎歯髄炎の痛みを上顎の痛みと間違えた症例
- Section 3 慢性部分性移動性歯髄炎を筋・筋膜性歯痛と間違えた症例 他

第3章 臨床推論の実践例②

- Section 1 直感的診断に分析的診断を加えて、正しい診断を導こう！
- Section 2 複数の医療機関を受診するも原因不明であった歯原性歯痛の2症例
- Section 3 心臓性歯痛を歯周炎および筋・筋膜性疼痛と間違えた症例 他